

計画を立てたからには

—もう一度、自分の生活を見直そう—

- 1 学 年 第6学年〔中期〕
 2 主題名 自分の生活を見つめる〔1－(1)〕
 3 ねらい

バラの茎の節目から小さな芽が出たことに気付き、急いで「夏休みの生活」を開き日記を書き始めた「ひろし」の気持ちを考えることを通して、節度を守り節制に心掛けようとする心情を育てる。

- 4 資料名 「計画を立てたからには」

5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 夏休みについて話し合う。 ○ 夏休みになったら、どんなことがしたいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海水浴 ・ キャンプ ・ 花火 	○ 児童の夏休みへの思いを自由に発表させることで、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「計画を立てたからには」を聞いて話し合う。 ○ 計画表に丸印を付ける「ひろし」は、どんな気持ちでしょう。 ○ 夜遅くまでこっそりゲームをする「ひろし」は、どんなことを考えているのでしょうか。 ◎ 急いで「夏休みの生活」を開き、日記を書き始めた「ひろし」は、どんな気持ちでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丸印が続いてうれしいな。 ・ この調子でがんばるぞ。 ・ お姉ちゃんもお母さんも心配しなくていいのに。 ・ ゲームは楽しいなあ。 ・ 一日、二日くらい水をやらなくてもかまわないよ。 ・ ずっとお盆ならいいのに。 ・ バラが元気になってくれてよかった。 ・ もう夜遅くまでゲームなんかしないぞ。 ・ 計画を立てたことを毎日続けるぞ。 	○ 児童自身が計画したことが順調に進むと、どんな気持ちになるかをふまえて考えさせる。 ○ このままゲームを続けたいと思っている主人公の気持ちに共感させる。 ○ 節度ある行動をとろうとする気持ちに共感させるために、主人公の考えていることをワークシートに書かせる。
終 末	3 自分の経験を振り返って話し合う。 ○ 一日の生活で心掛けていることはありますか。それはどんなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早寝、早起きをすること。 ・ 外で体を動かして遊ぶこと。 ・ 自分のことは自分ですること。 	○ 振り返りにくい場合は、「心のノート」P.12～13の事例を手がかりに、節度、節制を心掛けていることを振り返らせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が決めたことは、毎日続けてやるのが大切だな。 	○ 節度を守り、節制に心掛け、継続して取り組むことの大切さを感じ取らせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、小学校高学年の内容項目〔1－（1）〕「生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。」をもとに設定した。この内容項目は、基本的な生活習慣の確立と自らを節制することであるが、本授業では、自分の生活を振り返り、改善すべき点について見直しながら自分の力で望ましい態度へと改善させる自らを節制することに重点を置いた。「親に怒られたから」とか「人に言われたから」といった他律ではなく、自らの心に従って自らを律するという自律へと導く指導となるようにしたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 他教科等との関連

体育科の保健領域での学習、家庭科での衣食住の学習、学級活動等での心と体についての学習等との関連を図るようにするとよい。

イ 活用する時期

本資料は、夏季休業を取り上げて作成したが、児童生徒の実態に合ったよりよい資料とするために、他の長期休業や年度初め、大型連休の時期を扱った自作資料を作ってみるとよい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

資料への興味付けを図るために、導入において児童生徒の夏休みのイメージを挙げさせるとよい。この他の工夫例として、児童生徒が大切にしている生活習慣についてアンケートをとり、回答を紹介する活動を通して、現在の自分の価値観に気付かせ、自覚を促すようにするとよい。

イ 中心発問における学習活動の工夫

節度ある行動をとろう、自律しようという主人公の気持ちに共感させるためにワークシートに書く活動を取り入れること等により、主人公の気持ちに寄り添わせたい。そして、ワークシートに書いたことをもとに話し合うことで自分自身の考えを深め、ねらいにせまらせたい。

ウ 価値の一般化の工夫

児童生徒が資料による話合いを通して考えたことや感じたことを価値の一般化を図る際にも生かしたい。そこで、自己を見つめ、自分の問題として受け止めさせるという観点から、児童生徒の直接体験とそのときの気持ちや考えを問う発問となるようにしたい。

エ 終末の工夫

自分自身に厳しくなることが、やがて自分の力となり自然に行動できるようになると思えるような説話を行うこと等により実践意欲を高めたい。この他の工夫例として、5、6年生の「心のノート」P.14の「わたしのいきいき計画」の枠を使って、価値を高めるための取組を継続するとよい。

執筆者より

この資料は、長期休業中に誰もが体験するような出来事を取り上げている。授業では主人公に共感しながらも、自分自身を振り返り、子どもたち自身の経験と重ね合わせることで、より活発な話合い活動を展開させたい。

(川尻小学校 奥本 雅幸)